



ジュニパーネットワークス SRX3600

安定したオンライン取引を支える SRXの高いパフォーマンスと拡張性

サマリー

GMOクリック証券株式会社

本 社: 東京都渋谷区道玄坂1-10-8
渋谷野村ビル
設 立: 2005年10月
資本金: 43億4666万円

GMOクリック証券は、顧客の投資スタイルに応じた取引環境を提供。自宅や外出先など利用シーンに応じた豊富な取引ツールを用意するほか、業界最安値水準の手数料、安定したシステムなど、自社開発ならではのサービスを提供している。

<https://www.click-sec.com/>



GMOクリック証券株式会社
取締役
田島 利充氏



GMOクリック証券株式会社
システム部 マネージャー
箱崎 和男氏

インターネット専業の証券会社、GMOクリック証券では、顧客の増加や高機能な取引ツールによるトラフィック量の増大に対応するため、バックボーン・ネットワークの帯域を強化。それに合わせ、ジュニパーネットワークスのサービス・ゲートウェイ「SRX3600」を導入しました。SRX3600の高パフォーマンスのファイアウォールにより、急増するアクセスに耐えられるトラフィック処理能力、モジュラーカードの追加だけで処理能力アップが可能な柔軟な拡張性、Junos OSの高い信頼性などが評価され、導入に至りました。

システムの企画・開発から運用・保守まで自社で実施

インターネットを介して個人投資家がマーケットに参加するオンライン取引では、いつでも、どこでも、だれでも簡単に扱える取引ツールが重要になります。GMOクリック証券の特徴のひとつは、顧客の様々な利用シーンを想定した取引ツールを用意していることです。高機能な取引ツールで株の注文機能に特化した「はっちゅう君」やFX取引の即時注文が可能な「はっちゅう君FX」、スマートフォンでFX取引ができる「iClickFX」や「FXroid」などを提供しています。

GMOクリック証券は、こうした取引ツールの開発をはじめ、金融商品取引サービスのプラットフォームとなるITシステムの企画・開発から運用・保守まで自社で実施しています。そして、システム開発力を生かしたサービスの提供や業務の効率化により、削減したコストを顧客に還元しています。株式の現物取引をはじめ、信用取引、先物・オプション、FXネオ(店頭外国為替証拠金取引)、CFD(差金決済取引)、eワントなど、あらゆる取引を業界最安値水準の手数料で提供していることもその一例です。

「インターネット専業である当社にとってシステムは生命線です。金融商品取引のプロ集団であると同時に、エンジニアのプロ集団として、システム開発で妥協しない姿勢を貫いてきました。そして、高い技術力を生かしたスピーディな開発と運用により、低コストで品質の高いサービスをお客様に提供しています」とGMOクリック証券の取締役、田島利充氏は話します。

高機能な取引ツールの利用で急増するトラフィック

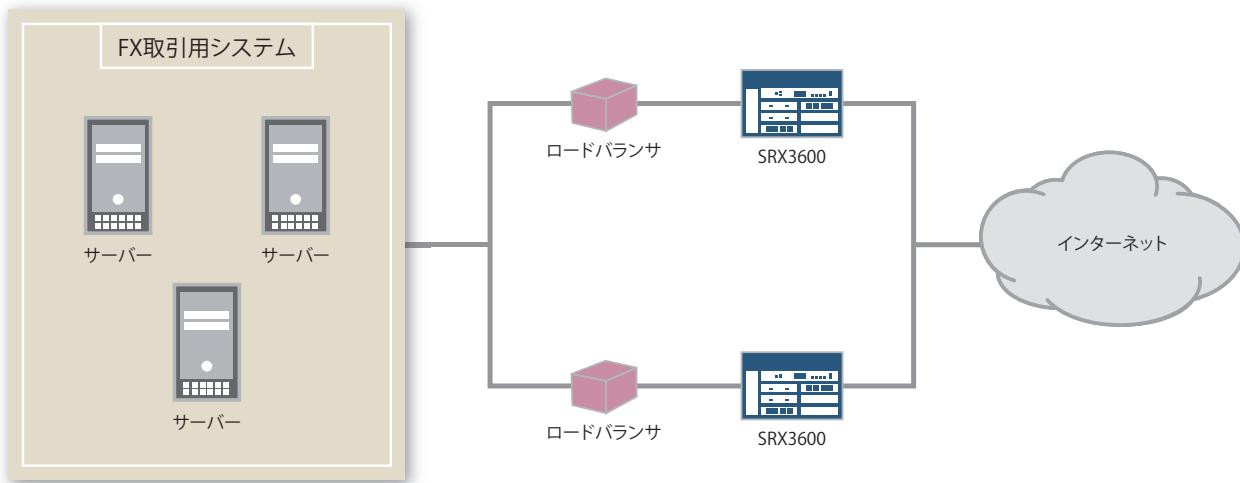
GMOクリック証券の「妥協しない姿勢」は、金融サービスのプラットフォームとなるネットワークの増強にも表れています。サービスの拡充とともに顧客は年々増加しており、株式の口座数は約12万、FXは約20万口座を数え、FXの取引高は世界第4位のシェアを占めています(2011年12月末現在)。そして、オンライン取引の増大、取引ツールの利用拡大と高機能化に伴い、トラフィック量が急増してきました。

例えば、高機能・高品位の取引ツール「プラチナチャート」は、ウインドウに複数のチャートを表示して多彩な分析手法に対応し、自由なレイアウト、軽快な操作感、高いデザイン性といった特徴から多くの顧客に利用されています。

そして、「取引ツールを利用する顧客1人あたりの通信量が急増し、ネットワークの帯域が逼迫していました。快適なサービスの利用環境を維持するために、バックボーン・ネットワークの強化が急務になっていたのです」とGMOクリック証券のシステム部マネージャー、箱崎和男氏はネットワークの課題を説明します。

オンライン取引では大量のトランザクションが発生することがあり、特に、株式は証券取引所が取引を開始する午前9時過ぎと、取引が終了する午後3時前に集中します。また、24時間の取引が行えるFXは、為替変動に影響を与える米国の雇用統計などの指標が発表されるときにアクセスが集中する傾向があると言います。

GMOクリック証券



GMOクリック証券では増え続けるトラフィックに対応できるよう、バックボーンの帯域をこれまでの3倍に増強するためにファイアウォールのリプレースを検討することになりました。「従来のファイアウォールは特に大きな問題はありませんでした」(箱崎氏)というものの、顧客によりセキュアで快適なアクセス環境を提供するため、高速スループットのファイアウォールを導入したいと考えていたのです。

拡張性と信頼性を備えたサービス・ゲートウェイ「SRX3600」を導入

新たに導入するファイアウォールの要件は、FX取引や証券取引のピークアクセス時にも耐えられる高いトラフィック処理能力を持つこと、今後のアクセス増加を見据えて安定的なネットワークを維持できることでした。加えて、「優れた拡張性と信頼性、パフォーマンスも重要なポイントになりました」と田島氏は述べます。複数のファイアウォール製品をリストアップし、比較検討の結果、ジュニパーネットワークスのサービス・ゲートウェイ「SRX3600」の採用を決定しました。「当社の要件である高い拡張性やパフォーマンスなどを備えていることに加え、ジュニパー製品に共通するJunos OSをぜひ活用したいと考えていたのです」と箱崎氏は採用理由を説明します。

SRX3600サービス・ゲートウェイは優れたルーティングとセキュリティ機能を統合し、企業やサービスプロバイダのデータセンターなどに適しています。モジュール型アーキテクチャを採用し、サービス処理カード(SPC)、I/Oカード(IOC)、ネットワーク処理カード(NPC)を柔軟に組み合わせたシステム構成が可能です。また、トラフィックの増加や必要なサービスに応じてカードを追加できる柔軟な拡張性とコストパフォーマンスを備えています。

GMOクリック証券では、FX取引サイトのネットワークにSRX3600を2台導入し、冗長化しています。SRX3600の導入決定から実環境でのテストを経

て、本格稼働までわずか1カ月。このスピード感がGMOクリック証券のビジネスを支えるアドバンテージとなっているのです。

Junos OSでサービスの変更・追加にも柔軟に対応

GMOクリック証券では、SRX3600を導入してから、この春で1年を迎えます。導入効果について、田島氏は「期待通りのパフォーマンスを発揮し、安定稼働しています。以前のようにトラフィックの増加による機器の過負荷を心配することもなくなりました」とSRX3600のパフォーマンスを評価します。例えば、2011年秋の欧州経済危機により、ユーロやドルなどの外国為替が大きく変動。FX取引などのトラフィックが急増したものの、ネットワーク帯域の増強と相まって、SRX3600は問題なく稼働できたと言います。

また、箱崎氏はSRX3600に搭載されたJunos OSの信頼性と使い勝手を評価します。「サービスの変更・追加などに応じ、SRX3600の設定変更を行っています。Junos OSの操作は初めてですが、とても使いやすいですね」。同社の約120名の社員のうち、システム部は60名、協力会社を含めるとエンジニアは約130名に及び、ネットワークの運用・保守も自社でスピーディに行える体制を整えています。

FX取引のサイトに加え、証券取引のサイトにもSRX3600の導入を進めています。「高機能取引ツールの導入で、今後、トラフィックの増加が見込まれています。そこで、FX取引で高いパフォーマンスを発揮するSRX3600を証券システムにも導入することになったのです」と田島氏は自社での導入実績を強調します。

GMOクリック証券では今後、さらにシステムリスク管理体制を強化する方針です。セキュリティレベルの強化、拡充に向けて、SRX3600サービス・ゲートウェイの役割はますます大きくなるに違いありません。



ジュニパーネットワークス株式会社

東京本社

〒163-1445 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー 45階

電話:03-5333-7400 FAX:03-5333-7401

西日本事務所

〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜1-1-27 グランクリュ大阪北浜

<http://www.juniper.net/jp/>

Copyright© 2012, Juniper Networks, Inc. All rights reserved.

Juniper Networks, Junos, NetScreen, ScreenOS, Juniper Networksロゴは、米国およびその他の国におけるJuniper Networks, Inc.の登録商標または商標です。また、その他記載されているすべての商標、サービスマーク、登録商標、登録サービスマークは、各所有者に所有権があります。ジュニパーネットワークスは、本資料の記載内容に誤りがあった場合、一切責任を負いません。ジュニパーネットワークスは、本発行物を予告なく変更、修正、転載、または改訂する権利を有します。